

第一回中間報告

(報告期間 2021/09/01～ 2021/12/25)

国際ロータリー第2710地区

2021-22年度地区補助金奨学生

近藤桃乃

派遣ロータリークラブ: 呉南ロータリークラブ

カウンセラー: 牛窓正規 様

留学機関: レンヌ第二大学 Université de Rennes 2

専攻: Médiation du Patrimoine et de l'Histoire d'Europe

1 学業の開始

2021年9月3日に留学先であるレンヌに到着し、私の所属する歴史分野の修士課程の合同オリエンテーションに参加しました。フランスの大学には入学式がなく、それぞれの学部に分かれて行われるオリエンテーションが入学式代わりのようなものです。学部（修士課程）の教授と入学希望の学生が集まり、学期の授業予定や学部の特徴についての話を聞きます。学生は100人ほどでしたが、見渡したところアジア人どころか外国人が全く見当たらず、私の専攻にも外国人は私だけでした。レンヌを

訪れるのは初めてだったので誰も知り合いがいませんでしたが、日本にいた頃から連絡をとっていた教授とやっと対面でお話をする事ができ安心しました。また、コロナ禍ということもあり、キャンパス内にはほとんどアジアからの留学生を見かけません。

オリエンテーションから授業が開始されるまで2週間ほど時間があつたので、アジア文化を専攻している学生が集まるクラブに行って交流をしたり、銀行口座の開設や、生活用品を揃えるなど新生活に向けての準備をしました。



(ハロウィンウィークのキャンパス内の様子)

2 留学先都市について

レンヌはフランスの西部ブルターニュ地方に位置し、モン・サン・ミシエルの観光の起点都市として有名です。ブルターニュ地方は、ガレットやクレープ、クイニーアマンなどが特産品で街の至る所にクレープ屋が並んでいます。レンヌは学生の街とも言われるほど、大学や専門学校などの教育機関が多く、町中は若い人で溢れています。私の寮からレンヌ市内までは地下鉄を利用して10分以内で着くので友達と

よく出かけています。市内には、サンピエール大聖堂、フランスで一番小さいと言われるオペラ、旧市街には中世の木造建築が並んでおり普段は観光客で賑わいます。また、フランスで2番目に大きいリス市場のマルシェは毎週土曜日に開かれレンヌ市外から多くの人が集まります。この地方は天気がとても不安定ですが、比較的治安もよく住みやすい素敵な街です。



(画像左：ガレット 画像右：クレープ)

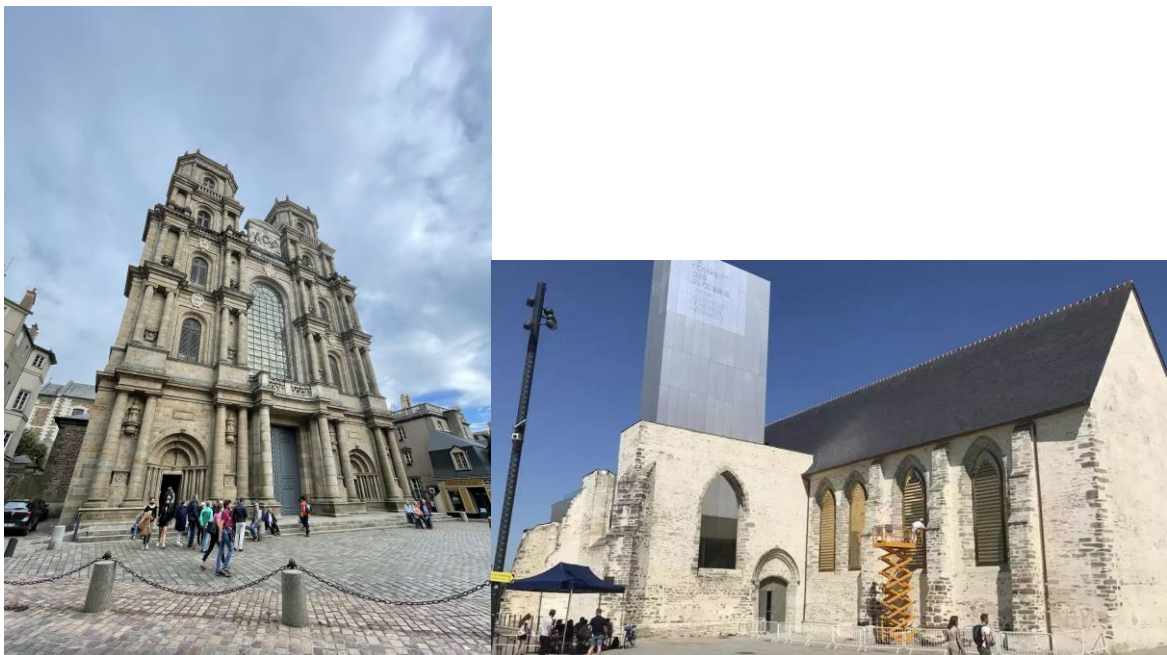
3 学業面での成果

講義は基本的に全て対面で行われています。建物内ではマスク着用は必須ですが、屋外では基本的にマスクをしていない人の方が多いです。

「情報調査」という講義では、レンヌ市内を教授にガイドしてもらいながら教会、ブルターニュ高等法院、レンヌ市庁舎、ジャコバン修道院などの歴史的建造物をまわるという日がありました。ジャコバン修道院はレンヌ市内の中心部にあり、国の

歴史的文化財に登録されています。現在は、改修工事によってイベントが行われる施設、レンヌ観光案内所も修道院に併設され新たな観光名所となりました。特に、2012年から13年にかけて行われた発掘調査で1656年に亡くなったフランス貴婦人ルイーゼドケンゴの遺体が発見されたことで注目を集めました。遺体が完全な状態で保存されていた点と、心臓を入れるハート型の入れ物に彼女の名前や没年が明確に記されていた点がこの発見の特別な要因です。

また、来期に向けてグループに分かれて1つのプロジェクトを進めています。プロジェクト内容は、レンヌ市内にある建造物が文化遺産として登録されることを目的に、その建造物の価値を調べるというものです。



(画像左：サンピエール大聖堂 右：ジャコバン修道院)

「遺産のメディエーション」という講義では、この講義の名前にあるように遺産のメディエーションとは何かということについて研究します。簡単に説明すると、歴

史遺産や文化遺産などの遺産をどのようにして未来に継承していくか、どのように人々との関わりを持たせることができるかなどについて考えるというものです。グループに分かれて、このテーマを実現するために1年かけてプロジェクトを計画します。私のグループでは、小中学校の教員に向けた、ブルターニュ地方の地下資源産業の遺産についてのドキュメント作成がテーマです。

レンヌ第2大学には第2外国語として日本語を学ぶ学生がいるので、日本語の授業にアシスタントとして参加しています。フランスでは昔からテレビで日本のアニメが放送されていたということもあり、日本に興味を持っている人がとても多いです。授業内で一度、日本の昔話についてというテーマでプレゼンテーションをしました。フランス語での発表はこの授業が初めてだったので緊張しましたが、日本文化を伝えるいい機会となりました。1月からは週に1度、日仏ハーフの子供の日本語教育を補助するレンヌ日本語補習校にアシスタントとしてお手伝いをしにいきます。



(アジア文化専攻の学生との交流)

4 受け入れ地区でのロータリーの関わり

コロナ禍ということもあり、本年度は受け入れクラブとカウンセラーの依頼を差し控えるという旨をお聞きしました。

フランス人の友達の家族がレンヌのロータリークラブで活動しているということを最近聞いたので、私もなんらかの形で関わるができるかどうか連絡をしている最中です。彼女によると、ホームレスの人への補助やゴミ拾いのボランティア、マスクや消毒ジェルの配給などの活動をしているそうです。

5 直面した課題、問題等

私の専攻に外国人が一人もいないということで、同じ状況の人がいないのは心もとないですがなんとか同じクラスの友人に助けをもらいながら頑張っています。主に歴史の授業で扱われるフランス語は難しい単語ばかりなので講義について行くのは大変です。日本での学部生時代のように、教授がパワーポイントやレジュメを用意して講義が行われるというスタイルではないため、スマホの録音機能を活用しながら予習復習をしています。フランス人学生に比べて予習と復習の時間が倍以上かかるので少しずつ慣れていきたいです。学業以外での心配事は、デモやストライキです。私はまだ遭遇していませんがレンヌ第2大学では学生や教授によるストライキが盛んだと聞いたので、年明けの講義に影響が出ないといいなと少し心配しています。また、オミクロン株も広まってきてワクチン反対派やマスク反対派のデモが街中では行われているので、これまで以上に健康管理には気をつけます。